

## Subsidized rotavirus vaccination program in the Kesen area, Iwate

岩手県立大船渡病院小児科

瀧向 透

### 気仙地区小児保健支援プロジェクトワーキンググループの設立

岩手県気仙地域は東日本大震災により甚大な被害を受けた。震災後、気仙地域は小児医療資源が不足して日本小児科学会から小児科医の派遣等を受けていたが、2011年8月に学会内に気仙地区小児保健医療支援プロジェクトワーキンググループが設立した。その目標は気仙地域をモデルとして他の被災地にも波及可能な介入方法を確立することである。

震災後に予防接種事業が遅延したこと、感染性疾患が流行する可能性があることを考え、その活動として予防接種事業を推進することとし、特に乳幼児の健康を守るため、ロタウイルスワクチン無料接種事業を計画した。

### ロタウイルスワクチン無料接種事業の実際

本事業の目的は、ロタウイルス胃腸炎の流行と重症化を予防することであり、その結果として子育て支援策、医療機関の負担軽減策となると考えた。

事業主体は大船渡市、陸前高田市、住田町とし、有害事象が生じたときは自治体の補償制度が利用できるようにした。気仙地区ワクチン接種基金を設立してその運営をNPO法人HANDSが行った。日本小児科医会、赤ちゃん成育ネットワーク、世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)、気仙医師会等から寄付を集めることで事業を継続している。

本事業の周知を保護者へ確実にを行うことは、接種時期が乳児期早期に限られるため重要である。医療機関は母親教室、出生後退院時、1か月健診時を、また、自治体は“パパママ教室”、“こんにちは赤ちゃん事業”等を利用して何回か説明するようにした。その際ワクチンスケジュール全般、予防接種の意義、同時接種の必要性についても説明して、保護者の予防接種に対する理解が深まるように努めた。

本事業は2012年1月から開始され、推定接種率92%(2012年1月から12月までの出生数367人のうち339人が接種)と多くの子ども達が接種している。

### ロタウイルスワクチン無料接種事業の効果

#### 1. ロタウイルス感染の重症化に及ぼす効果

岩手県立大船渡病院にロタウイルス胃腸炎のため入院した小児患者数を検討した。事業を開始した2012年以降、ロタウイルス胃腸炎による入院患者数は減

少している。

## 2. 医療経済学的検討

マルコフ・コホートモデルを用いて推計した結果、本事業は年間 240 万円の経済効果があると推計された。

### 考察

気仙地域ロタウイルスワクチン無料接種事業は 92%と高い接種率で行われており、費用助成があることが要因と考える。本事業開始後に気仙地域のロタウイルス胃腸炎による入院患者数は減少し、医療経済学的検討でも気仙地域にとって有効と推定される。

以上より本事業は子どもたちをロタウイルス感染症から守ることのみならず、保護者に対する子育て支援策、医療機関の負担軽減策となり得る。

### まとめ

ロタウイルスワクチン無料接種事業は震災後の被災地支援策として有効と考えられた。